

名古屋港における港湾貨物の流動

The Flow of Freights in Nagoya Port.

安 積 紀 雄
Toshio Azumi

目 次

- I. はじめに
- II. 搬入出貨物品目と搬入出貨物の地区別比率、および地区別搬入出貨物の特色
 - 1. 搬入出貨物品目
 - 2. 搬入出貨物の地区別比率
 - 3. 地区別搬入出貨物の特色
- III. 搬入出貨物の仕出・仕向県と搬入品目別主要仕出県、および搬出品目別主要仕向県
 - 1. 搬入貨物の仕出県と搬出貨物の仕向県
 - 2. 搬入品目別主要仕出県
 - 3. 搬出品目別主要仕向県
- IV. 搬入貨物の主要品目の仕出地区と搬出貨物の主要品目の仕向地区
 - 1. 搬入貨物の主要品目の仕出地区
 - 2. 搬出貨物の主要品目の仕向地区
- V. 荷送人・荷受人の業種と仕出・仕向場所、および輸送機関
 - 1. 搬入貨物の荷送人の業種と搬出貨物の荷受人の業種
 - 2. 搬入貨物の仕出場所と搬出貨物の仕向場所
 - 3. 輸送機関
- VI. おわりに

I. はじめに

1960年以降、生産と消費両活動の進展にともない、流通の機能が重要視されてきた。流通は商流と物流に2分され、そのなかでも物流に対する企業の関心が高まってきた。この物流は輸送、保管、荷役、在庫管理、情報処理の5つの項目によって構成され、このうち輸送の経済活動に果たす役割は大きい。

近年、海上交通の拠点である港湾における貨物輸送が注目されている。この際、物流量の増大によって、港湾貨物とその地域的動向を把握することは港湾の存立基盤の強化には重要な条件といえる。本論では名古屋港の港湾貨物の流動状況を分析することによって、当港の地域的特色を明らかにする。1997年の名古屋港の総取扱貨物量はわが国の港湾のなかでは第3位に位置し¹⁾、研究対象の港湾としては適切であると考ええる。研究方法は主に「1992年の名古屋港の陸上出入貨物調査」による統計資料²⁾を利用するが、その場合、図や表は紙面の制約から一部を除いて省略した。

II. 搬入出貨物品目と搬入出貨物の地区別比率、および地区別搬入出貨物の特色

1. 搬入出貨物品目

主要輸出品目の貨物量による構成比をみると、輸送機械が71%、その他機械が9%、鉄鋼が5%、ゴム製品と陶磁器がいずれも2%である。輸送機械の比率が高いのは名古屋港の特色を示す。続いて主要移出品目については、石油製品が37%、鉄鋼が19%、重油が14%、輸送機械が12%、その他非金属鉱物が7%で、多品目化を表す。

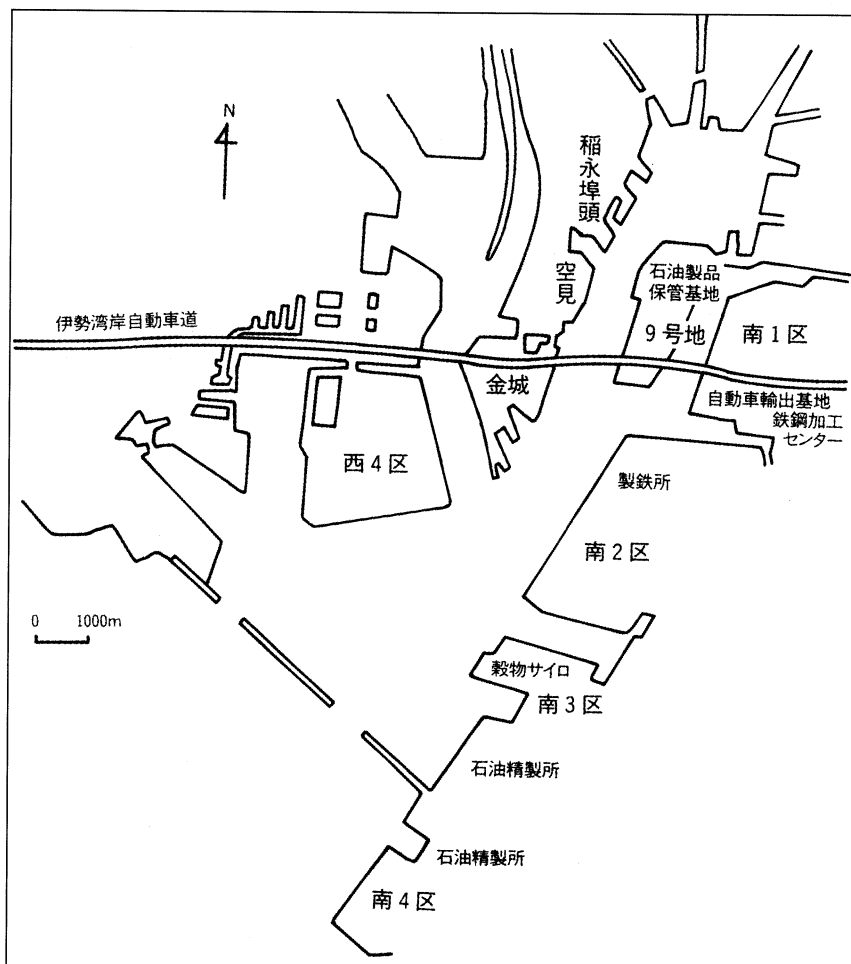
次に主要輸入品目の貨物量による構成比をみると、原油が31%、鉄鉱石が19%、石炭が13%、石油製品が8%、原木が5%、米・雑穀・豆が4%で、原料関係の品目の比率が高い。主要移入品目の場合は石油製品が27%、鉄鋼が23%、重油が15%、セメントが8%、化学薬品が7%で、石油製品と鉄鋼の比率が高い。

2. 搬入出貨物の地区別比率

搬入貨物量を図に示した地区別の取扱い比率でみると、輸出貨物については、西4区が40%、南1区が26%、金城地区が13%、南2区が5%で、自動車輸出基地の立地する地区の比率が高率となる。続いて移出貨物によると、南4区が46%、南2区が23%、南1区が10%となり、南4区では石油精製所の存在すること、南2区では製鉄所の立地することによる影響が大きい。

次に搬出貨物量の取扱い地区別比率の場合は、輸入貨物については、南2区が32%、南4区が29%、南3区が14%、西4区が11%である。南2区と南4区は前述の如く、製鉄所と石油精製所の立地による。移入貨物に関しては、9号地区が37%、西4区が9%、南2区が7%、南4区が5%で、9号地区には石油製品の保管基地が存在する。

ところで、輸出コンテナを扱う地区別の貨物量の比率をみると、西4区が61%、稲永埠頭地区が12%、金城地区が10%で、西4区の比率がきわめて高い。当地区は数多くのコンテナ埠頭を備え³⁾、輸出コンテナ貨物の取扱いの拠点である。輸入コンテナを扱う地区別の貨物量の比率についても、西4区が58%、金城地区が11%、稲永埠頭地区が7%で、上述の輸出コンテナの状況と類似する。



名古屋港の概念図（2000年）

3. 地区別搬入出貨物の特色

名古屋港内で取扱い貨物の多い各地区の搬出・搬入貨物の特色を検討する。まず、南4区は総貨物量の20%を扱い、比率がもっとも高い。この地区では石油精製所が立地するため、原油や石油製品が多く、搬入貨物はほとんど移出品の石油製品と重油で占め、搬出貨物では大半を輸入の原油が占める。南2区も総貨物量の20%を取扱い、上記の南4区と同率である。当地区では製鉄所が立地することにより、搬入貨物は移出の鉄鋼が目立ち、搬出貨物としては鉄鉱石や石炭、石灰石の輸入が多い。

さて、西4区は総貨物量の16%を扱い、コンテナ基地、モータープール、陸上貯木場⁴⁾、貯油槽など多岐な施設をもつ。搬入貨物はほとんど輸出で、在来貨物⁵⁾よりもコンテナ貨物が多く、上位3品目は輸送機械、その他機械、ゴム製品で占められる。搬出貨物は輸入コンテナ、在来貨物、移入貨物の3つがほぼ同量で、上位3品目はコンテナでは日用品、輸送機械、肥料、在来貨物は原木、重油、非鉄金属、移入品は重油、原油、石油製品となる。続い

て、南1区は総貨物量の10%のシェアをもち、この地区は輸送機械の輸出基地と鉄鋼の加工センター⁶⁾を備えている。このため搬入貨物の大部分が輸出の輸送機械であり、搬出貨物はほとんど移入品で占め、その主要品目は鉄鋼である。

9号地区は総貨物量の9%のシェアを所有し、当地区には貯油槽が数多く集中する。搬入貨物のほとんどが輸出の輸送機械であり、搬出貨物は大半を移入貨物で占め、主として石油製品と重油で構成され、量的には搬入貨物に較べて、圧倒的に多い。南3区は総貨物量の8%を取扱い、当地区には石油精製所と穀物サイロ、および穀物加工工場が立地する。搬入貨物の大半は石油製品、重油などの移出品であり、搬出貨物はほとんど在来貨物の輸入品で、その主要品目としては原油、米・雑穀・豆、石油製品などがあげられる。なお、この地区は搬出貨物が搬入貨物に較べて、圧倒的に多く、上述の如く原油や農産物の輸入基地としての特色をもつ。

金城地区は総貨物量の4%のシェアをもち、輸出に特化した地区である。搬入貨物のほとんどが輸出され、コンテナ貨物としては輸送機械、その他機械、ゴム製品の3つが上位3品目を構成し、在来貨物では輸送機械がほとんどを占める。搬出貨物の場合、その大部分が輸入コンテナで、日用品が主である。空見地区は総貨物量の4%のシェアを有し、搬出貨物が搬入貨物に較べて多いのが特色といえる。搬入貨物の大部分は輸出品で、コンテナよりも在来貨物の方が目立つ。主な品目としてはコンテナ・在来貨物両者とも輸送機械、その他機械、陶磁器があげられる。搬出貨物では移入品が主で、品目としては鉄鋼、セメントが卓越する。

Ⅲ. 搬入貨物の仕出・仕向県と搬入品目別主要仕出県、および搬出品目別主要仕向県

1. 搬入貨物の仕出県と搬出貨物の仕向県

1992年の輸出貨物量を主要仕出県別の比率でみると、愛知県が81%で、きわめて高い比率を示し、他は三重県、岐阜県、静岡県がいずれも4%、滋賀県が2%である。1987年の時点については、愛知県が85%、岐阜県が5%、三重県が4%で、1992年の時点とほとんど変化は認められない。続いて1992年の移出貨物量を主要仕出県別の比率でみると、愛知県が95%で、圧倒的な比率を占め、他県は微々たるものである。1987年の時点では愛知県が85%であり、2時期とも愛知県の比率がきわめて高率である。

次に1992年の輸入貨物量を主要仕向県別の比率でみると、愛知県が91%であり、1987年の時点でも92%を占め、ほとんどの貨物の仕向県が愛知県を対象とする。続いて1992年の移入貨物量を主要仕向県別の比率でみると、愛知県が79%、岐阜県が12%、三重県が5%で、1987年の時点では愛知県が81%、岐阜県が9%、三重県が3%で、いずれの時期も愛知県の比率が著しく高い。

2. 搬入品目別主要仕出県

搬入貨物の上位5品目は輸送機械、石油製品、鉄鋼、その他機械、重油である。これらの品目の仕出地の第1位はすべて愛知県であり、第2位以下については、数量が1万トンを超える仕出地に限定すると、輸送機械では静岡県、三重県、京都府、岐阜県の順序であり、その他機械では2位が静岡県、3位が滋賀県である。

ところで、輸出貨物の上位5品目は輸送機械、その他機械、鉄鋼、ゴム製品、陶磁器で、仕出地では5品目のすべての第1位が愛知県であり、第2位以下で数量が1万トン以上の仕出地をあげると、輸送機械では静岡県、三重県、京都府、岐阜県の順となる。その他機械では2位が静岡県、3位が滋賀県、ゴム製品では2位が三重県、陶磁器では2位が岐阜県となる。さらに、輸出貨物のうちコンテナ貨物をみると、上位5品目は輸送機械、その他機械、陶磁器、ゴム製品、ガラス類で、ガラス類を除けば、他の品目の仕出地ではすべて第1位が愛知県である。なお、ガラス類では滋賀県が第1位である⁷⁾。第2位の仕出県については、輸送機械は三重県、その他機械は滋賀県、陶磁器は岐阜県、ゴム製品は三重県、ガラス類は愛知県となる。

続いて、輸出貨物のうち在来貨物の上位5品目は輸送機械、鉄鋼、その他機械、化学薬品、石油製品である。仕出地では5品目のすべての第1位が愛知県で、静岡県が輸送機械とその他機械で第2位、京都府が輸送機械で第3位となる。移出貨物の場合、上位5品目は石油製品、鉄鋼、重油、輸送機械、その他非金属鉱物で、仕出地はいずれの品目も第1位が愛知県で、これ以外に1万トン以上の仕出地としては、輸送機械で第2位が神奈川県、第3位が静岡県である。

以上、愛知県の仕出量の全体比は86%にのぼり、品目別でも輸送機械の85%が愛知県の仕出地としている。第2位は岐阜県で、品目別にみると、輸送機械の輸出が第5位、陶磁器の輸出が第2位、その他機械の輸出が第4位、その他非金属鉱物の移出が第2位である。第3位は静岡県で、品目別にみると、輸送機械の輸出が第2位、その他機械の輸出が第2位、輸送機械の移出が第3位である。第4位の三重県については、輸送機械の輸出が第3位、ゴム製品の輸出が第2位、その他機械の輸出が第5位、陶磁器の輸出が第3位となる。東海4県以外では、京都府の輸送機械の輸出が第4位、滋賀県のガラス類の輸出が第1位、同じくその他機械の輸出が第3位、神奈川県の輸送機械の移出が第2位、福島県のゴム製品の輸出が第3位などが目立ち、これらの県も後背地の一部に含まれる。

3. 搬出品目別主要仕向県

搬出貨物全体のうち、愛知県に出荷されるのは87%に達し、第2位以下には岐阜県、三重県、静岡県、長野県の順で、上位5県の全体比は97%に及ぶ。品目別では、原油、石油製品、鉄鉱石、石炭、鉄鋼が上位5品目を構成し、これらの搬出貨物量の全体比は67%を占める。上位5品目それぞれの第1位の仕向県はいずれも愛知県で、第2位は岐阜県、第3位は三重県である。輸入貨物の上位5品目は原油、鉄鉱石、石炭、石油製品、原木で、これらの搬出

量は全体の77%に達する。輸入品の第1位の仕向県は愛知県で、量的な全体比は91%に及ぶ。第2位以下は岐阜県、三重県、静岡県、長野県の順序で、上位5県の比率は97%を占める。5品目それぞれの第1位の仕向県はすべて愛知県である。

次に輸入貨物のうち、コンテナの上位5品目は日用品、輸送機械、飼肥料、綿花、非鉄金属で、これらの搬出量は全体の43%を占める。上記の品目の第1位の仕向県もすべて愛知県となる。移入貨物では全体の79%が愛知県へ搬出される。上位5品目は石油製品、鉄鋼、重油、セメント、化学薬品で、量的な全体比は80%を占める。第2位以下の仕向県は岐阜県、三重県、静岡県、滋賀県の順序で上位5県の比率は97%に及ぶ。上位5品目の第1位の仕向県はすべて愛知県となり、第2位が岐阜県であり、重油を除いて第3位の仕向県は三重県である。

Ⅳ. 搬入貨物の主要品目の仕出地区と搬出貨物の主要品目の仕向地区

1. 搬入貨物の主要品目の仕出地区

搬入貨物量の仕出地区別比率をみると、尾張が50%、西三河が33%、東三河が3%、北勢と西遠がいずれも2%で、尾張が半分を占める。上位5品目別によると、輸送機械では西三河が64%、尾張が17%、東三河が4%、北勢と京都府がいずれも3%で、輸送機械工業の発達した西三河の比率が高い。石油製品では尾張が99%を独占し、これは名古屋南部臨海工業地帯のなかの石油精製所による。鉄鋼の場合も尾張が99%というきわめて高い比率で、この比率は石油精製所と同じ工業地帯の製鉄所に依存するものである。その他機械では尾張が55%、西三河が11%、湖北と東三河がともに7%、西遠が6%で、比較的各地区に分散する。重油では尾張のみで、これも名古屋南部臨海工業地帯に立地する石油精製所から搬入される。

2. 搬出貨物の主要品目の仕向地区

搬出貨物量の仕向地区別比率をみると、まず、総搬出貨物量については、尾張が79%で、圧倒的な比率を占め、西三河が7%、岐阜が2%である。続いて上位5品目別によれば、原油では尾張がすべてを占め、上述の石油精製所に搬出される。石油製品では尾張が74%、西三河が9%、岐阜・北勢・東濃がいずれも3%で、尾張の比率が高い。石油製品の物流圏は名古屋港を中心に比較的狭域となる。鉄鉱石では尾張以外はみられず、南部臨海工業地帯の製鉄所の原料として供給される。石炭では尾張が98%で、ほぼ全量を占め、これも上述の製鉄所に搬入される。鉄鋼では尾張が49%で、西三河が36%、北勢・岐阜がともに3%で、尾張と西三河にほぼ2分される。

搬入貨物のうち、輸出コンテナの上位5品目の貨物量の仕出地区別比率によると、輸送機械では西三河が61%、尾張が25%、その他機械は尾張が55%、西三河が10%、湖北と東三河がいずれも9%で、これらの比率は搬入貨物量の品目仕出地区別比率とほぼ類似している。

陶磁器では尾張が40%、東濃が38%、北勢が10%で、陶磁器産地を含む地区の比率が高い。ゴム製品では伊勢志摩が28%、東三河が23%、西三河が9%で、いずれの地区も大規模なタイヤ工場が立地する。ガラス製品では湖北が76%、尾張が22%で、湖北の高率なことはガラス製品を製造する大工場の設置に起因する。

搬入貨物のうち、輸入コンテナの上位5品目の貨物量の仕向地区別比率によると、日用品では尾張が55%、岐阜が14%、西三河と東濃がともに5%で、大消費地である名古屋を含む尾張の比率が高い。輸送機械では西三河が71%、東三河と尾張がともに12%で、輸送機械の工場の集積する西三河の比率が圧倒的に大きい。飼肥料では尾張が49%、東三河が17%、北勢が5%で、飼肥料を扱う商社の多い尾張の比率が目立つ。さらに、綿花では尾張が20%、中信が16%、西三河が15%、西遠が12%、岐阜が9%で、比較的多地区に分散し、これは紡績工場の分布の影響を受ける。最後に非鉄金属では尾張が26%、西三河が21%、北勢が7%、西遠が6%で、これらは非鉄金属を原材料とする工場の立地を反映する。

V. 荷送人・荷受人の業種と仕出・仕向場所、および輸送機関

1. 搬入貨物の荷送人の業種と搬出貨物の荷受人の業種

輸出貨物量を荷送人の業種比率でみると、輸送用機械器具製造業が62%、運輸・通信業が7%、鉄鋼業が6%、窯業・土石製品製造業が62%、電気機械器具製造業が4%で、輸送用機械器具製造業が圧倒的な比率を占める。続いて、移出貨物量を荷送人の業種比率によると、石油・石炭製品製造業が55%、鉄鋼業が23%、輸送用機械器具製造業が11%、鉄鉱が5%で、石油・石炭製品製造業と鉄鋼業の比率が大きい。

次に輸入貨物量を荷受人の業種比率でみると、鉄鋼業が33%、石油・石炭製品製造業が30%、電気・ガス製造業が11%、木材・木製品製造業が6%、食料品製造業が4%で、鉄鋼業と石油・石炭製品製造業の比率が高い。続いて、移入貨物量の荷受人の業種比率については、卸売・小売業が23%、電気・ガス製造業と鉄鋼業がいずれも12%、輸送用機械器具製造業が11%、窯業・土石製品製造業が10%で、卸売・小売業の比率がもっとも高い。また、製造業を対象とした比率に限定すれば、輸入貨物が83%に対して、移入貨物が57%で、両者の比率に格差が認められる。

2. 搬入貨物の仕出場所と搬出貨物の仕向場所

搬入貨物量の仕出場所別の比率をみると、まず、輸出貨物では工場が92%で圧倒的に高く、他には営業用倉庫が4%、自家用倉庫が2%、野積場が1%である。移出貨物の場合も類似しており、工場が99%にのぼる。これは前述の荷送人業種に製造業の比率がきわめて高いことに密接に関連している。

次に輸入貨物量の仕向場所別比率によると、工場が89%、自家用倉庫と営業用倉庫がとも

に3%で、仕向場所でも工場の比率が著しく高い。移入貨物の比率については工場が62%、小売店舗が20%、サイロが4%、自家用倉庫と営業用倉庫がともに2%である。移入貨物の場合は輸入貨物に較べて工場の比率がかなり小さいのに対して、小売店舗の目立つ点を特色として指摘できる。これも前述の如く移入貨物の荷受人の業種を反映している。

3. 輸送機関

搬入貨物量の輸送機関別比率をみると、輸出貨物では自動車が93%、その他が7%で、ほとんどが自動車に依存する。移出貨物の場合はその他が79%、自動車が21%で、その他の比率が目立つ。これは石油製品や重油などがパイプラインで輸送されているためである。

次に搬出貨物の比率については輸入貨物ではその他が75%、自動車が24%で、その他の比率の高いのはパイプラインやベルトコンベアで輸送される原油、鉄鉱石、石炭などが多いためである。移入貨物の場合は自動車が73%、その他が26%で、自動車の比重が大きい。

VI. おわりに

主要輸出品目では輸送機械が目立ち、主要移出品目では多品目化が著しい。主要輸入品目では原料関係のものが多く、主要移入品目の場合は、石油製品と鉄鋼の比率が高い。搬入出貨物の取扱い地区については輸出貨物では西4区、南1区の比率が大きく、自動車輸出基地の立地による。移出貨物では南4区、南2区が目立ち、石油精製所の影響を受ける。輸入貨物については、南2区、南4区の比率が高く、移入貨物では9号地のそれが大きく、前者は製鉄所と石油精製所、後者は石油製品の保管基地によるためである。

さらに、地区別の主要な取扱い貨物については南4区では原油、石油製品、重油、南2区では鉄鋼、鉄鉱石、石炭、西4区では輸送機械、その他機械、ゴム製品、日用品、肥料、原木、重油、非鉄金属、原油、石油製品、南1区では輸送機械、鉄鋼がそれぞれ卓越する。続いて、9号地では輸送機械、石油製品、重油、南3区では石油製品、重油、原油、米・雑穀・豆、金城地区では輸送機械、その他機械、ゴム製品、日用品、空見地区では輸送機械、その他機械、陶磁器、鉄鋼、セメントがあげられる。

次に各品目の仕出県と仕向県は、いずれも愛知県の比重が大きく、名古屋港の後背地の大半は当該県で占められる。愛知県内には自動車生産地、石油精製所、製鉄所が存在し、愛知県と名古屋港との結合はきわめて強力となる。ただし、こうした状況には名古屋港の中間港としての性格が表れ、愛知県以外の他地域については名古屋港への依存度は低い。

注

- 1) 千葉・神戸港に次いで年間貨物取扱量は約1億4,000万トンである。
- 2) 5年に一回実施される港湾調査による指定統計のなかの一部である。
- 3) コンテナ埠頭が8バース存在する。
- 4) チップの広大な野積場をいう。
- 5) 在来船により輸送される貨物
- 6) トヨタ自動車会社系列による大規模な鉄鋼の保管と加工施設である。
- 7) 滋賀県高月町に電気ガラスを製造する大規模な工場が立地する。

文献

- 安積紀雄 (1996) : 「営業倉庫の展開と存立基盤」, 大明堂
- 野尻亘 (1997) : 「日本の物流」, 古今書院